

29Cl-am10

後発品のネガティブ情報が患者に与える影響

○竹村 修¹, 井口 淳¹, 末永 明日香¹(¹総合メディカル・ファーマシー中部)

<目的>

2008年度の「後発医薬品の使用状況調査」によると、後発品の使用について未だ積極的にならきれない医師・薬剤師は多い。一方、後発品を敬遠する患者は20%ほどにとどまるが、患者の大半は後発品の情報をテレビコマーシャルから得ており、その情報はメリットばかりに偏った印象を受ける。リスクやデメリット（ネガティブ情報）を伝えたとき、果たして患者は後発品を選択するのか？後発品への代替調剤に対して我々が臨むべき姿勢を見極めるため、今回あえて患者にネガティブ情報を伝え、後発品に対する真のニーズを探った。

<方法>

患者をA、Bの2群に分け、後発品の情報をアンケート形式で提供する一方、A群のみネガティブ情報も伝えた。その上で、①後発品の処方希望、②後発品への変更条件、③後発品への代替調剤に関する責任の所在、について尋ね、両群の結果を比較することでネガティブ情報が①～③に与える影響を分析した。

<結果>

A群では変更条件が厳しくなったが、処方希望や責任の所在についてはB群と大差なかった。A・B群共に後発品を敬遠する患者、後発品選びを薬剤師に任せたい患者、健康被害の責任を薬剤師に対して感じる患者はいずれも10%未満であった。

<考察>

患者の後発品に対するニーズは本物である。我々薬剤師は患者のニーズを満たすために後発品への代替調剤に積極的に取り組むべきであり、それが結果として医療費の削減、さらには薬剤師への社会的信頼の向上につながると思われる。